

人間環境

「ディベート演習」

後期から1年生理科では、「人間環境」という授業が行われています。これは「家庭」と「保健体育」の分野を融合し、豊かな人間生活を構築するため生活に必要な知識・技術を習得したり、生命観・倫理観を身に付けることを目的として実施されている学校設定科目です。この科目では、ディベートという方法を用いて学習することが特徴です。

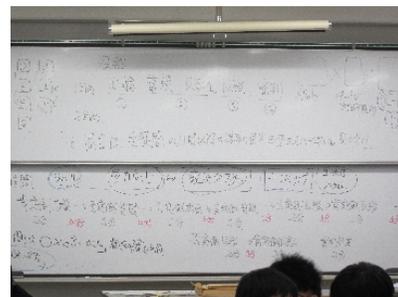
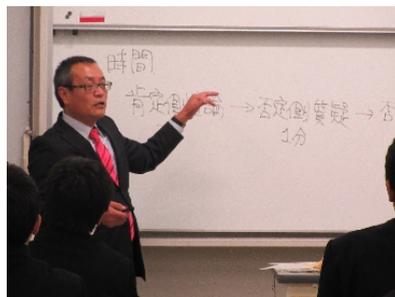
研究発表等では質疑応答のスキルは欠かせないものです。この講座ではディベートを行うことにより、自分の考えを根拠に基づき論理的に主張すること、人の意見を聞き自分の意見との違いを認め、相手の考えや思いを理解すること、そして、一步踏み込んでその意見の違いをどう解決していくかなどを身に付けて欲しいと思います。

ディベートの基礎について学ぶ

ディベートとは？

与えられたテーマの是非について、話し手（ディベーター）が肯定側・否定側に分かれ、決められた持ち時間・順番の中で、第三者（ジャッジ）を説得する形で議論を行います。スポーツやゲーム等と同様にきちんとしたルールがあり、勝ち負けがあります。勝ち負けの基準は、ジャッジをどちらがより「説得」できたかにあり、相手やジャッジを論破・圧倒・翻弄することではありません。

ディベートは、一般的に立論／尋問／反駁で構成されます。立論は自説を論理づけて説明し、これから行うディベートの論点と論拠を明確にするパートです。尋問は相手の立論に対する質疑応答のパート。反駁とは立論の中で出てきた論点にそって、議論を深めるパートです。



全国教室ディベート連盟北陸支部長である金沢大学の神谷先生から、ディベートの基礎を学びました。

今回のテーマは「日本は尊厳死法案を法定化すべきである」です。このテーマに従ってディベートを行いました。メンバーで協力し合って下調べをし、作戦を練り、予想される質問に対する答えを想定するなど念入りに準備して本番に挑んでいました。決勝に進んだのは竹中・寺西・中村・名山チーム、山敷・順毛・中西・古田チームの2チームで、1年生理科全員が試合を観戦し、最後には観戦者全員の投票により勝ち負けを決めました。結果は否定側（古田チーム）の勝利となりましたが、どちらの班も立論・反駁ともうまく組み立て、見応えのある試合でした。大勢の前でのディベート対戦ということで生徒達は大変緊張していたようですが、冷静に論じることができていました。



予選の様子



試合前の打ち合わせ



優勝チーム



準優勝チーム



決勝戦を仕切りました

講演会

「人間環境」のディベートのテーマに関する講演会が1年生全員を対象に行われました。命の尊厳、生きることや死について、思春期の性、妊娠・出産について学びました。



10月30日 佐原病院・さはらファミリークリニック院長の佐原先生「かけがえのない命ー死とは何かー」



模擬妊婦体験と模擬胎児を持って

1月23日
公立能登総合病院助産師の平田先生
「かけがえのない命」